



## スポーツマンシップに則り

39日間の夏休みが終わりました。最高気温が35℃以上の猛暑日が続き、また全国的にも台風や大雨等による自然災害が多かったように思います。夏休み中における保護者の皆様のお子さんへの安全指導や健康管理に感謝申し上げます。

さて、毎年熱戦を繰り広げる夏の甲子園。高校野球も昨今の暑さからクーリングタイムを設けたり、一投手の肩を酷使させないように分業して登板する体制が増加したりするなど、昔に比べるとずいぶんと変化してきていることを感じます。しかし、目標に向かって仲間と協力し合い、相手や審判等に礼を尽くし、どんな状況でも最後まで全力を尽くす高校球児の姿はどの時代も同じであり、いつも美しく心を打たれます。今までの甲子園の名場面を挙げて順位を付けるとしたら大変迷ってしまいますが、「星陵高校 松井秀喜選手への5打席連続敬遠」は間違いなく上位にランクインするのではないのでしょうか。投手が打者との勝負を避け、故意に四球を与える「敬遠」（現在のルールは投手が投球せずに四球を与える「申告敬遠」）は、野球において回数制限などない正式なルールです。だがその作戦を同じ打者に対して複数回続けて行うことは、地方大会を勝ち抜き、都道府県の代表として、甲子園という晴れの舞台で自分の力を表現することを否定してしまうような、一見、スポーツマンシップに反するような作戦に見られます。後に有名なホームランバッターに成長した松井選手のバッティングを楽しみにしていた観客からも、「勝負しろ」などと罵声が飛んだりグラウンドに物が投げ入れられたりするなど、普段とは違った騒然とした試合になったことを覚えております。スポーツには勝敗はつきものです。勝負するからには誰もが勝利や自分ができることを追い求め、そのために一生懸命練習したり勝つための作戦を練ったりして、その努力したことが本番で成功するように全力を尽くそうとするからスポーツは楽しいと思えるのだと思います。相手チームの監督が松井選手のずば抜けた力を認め、チームとして試合に勝つためには「松井選手全打席敬遠」をした方がよいと共通理解した上で、投手は当然勝負したい気持ちもあっただろうが、作戦どおりに同じ打者に5回も敬遠しようとした決断も称えてあげたいところです。

9月16日（土）、第43回秋季運動会を行います。運動会のねらいや内容に即し、また児童の体力面も鑑みて今年度も半日の開催といたしますので、来賓や地域、就学時等による種目は時間の都合上設けておりません。ただ参観における人数の制限はいたしませんので是非足をお運びいただき、児童の様子を見てお声がけいただけますと幸いです。本校の運動会も紅白に分かれて勝敗を競います。それぞれのチームの勝利を目指して、全力で走らせたり、協力をして競技に参加させたりします。また見に来ていただける方々に喜んでいただけるように練習をしっかりと行って本番を迎えられるようにさせたいと思います。スポーツマンシップに則り、相手を尊重し素直に勝敗を受け入れること、また、苦手なことでも失敗を恐れず勇気をもって挑戦すること、そしてどんな状況でも最後まで粘り強く楽しんで行うことを実践させていきます。もちろん勝利することだけや究極の完成度を追い求めるあまり、その過程で行き過ぎた指導があってはなりません。また、暑さも予想されるため、長時間の練習による児童の影響についても十分配慮して参ります。（校長 横尾 臣）